



波紋



設立から9ヶ月が経過した今 —皆様お一人、お一人に感謝の想いを抱きながら—

教育活動総合サポートセンター

理事長 井 口 衛

「子たちに力を」

「子たちと夢を」

設立のおもいを活動の目的を、ひとりひとりが抱きながら、わたくし達も子ども達と共に学び合い共に生きていきたい。

皆様のあたたかいご理解・ご支援に厚く御礼申し上げます。

「おはようございます。おはよう。」そして学習、「ありがとうございました。さようなら、ごくるう様、気をつけて帰りなさい」

「夜も同じ心の通うあいさつがくりかえされる。」

この間も電話の相談に対応する担当のメンバー。

ア. 設立時のころ

あの3月6日の設立の集い、理事会、世話人の宮田進・名取栄司・佐々木武志・三氏の呼びかけで趣旨に賛同された29名のみなさん、そして心よく監事を引き受けてくださいました中山陽洋様・木村雄二様、31名の構成で教育活動総合サポートセンターが発足しました。わたくし自身思いもかけない理事長という任、浅学非才な身が。どなたでも理事長にふさわしい人達

の集まりですが・・・みなさんと共に生きる喜びを与えられた感謝感激を忘れずに微力ですが力を尽したいと考えております。

イ. 整備されたセンター(事務所・運営他)

3月終りより事務所の整備、多くの方々のご好意により日一日と模様がえ、またこの間法人としての県への申請(7月23日認証、法務局より8月中旬に認証され法人となりました。7月31日(土)の設立総会・記念講演会(別面参照、祝賀懇親会、中心となつてこの日の準備にあたられたみなさんを思い浮かべます。また、総会には教育長河野和子様・懇親会では川崎市長阿部孝夫様よりあたたかい励ましのご挨拶をいただきました。

懇親会で乾杯の音頭をとられました川崎市退職校長会会長篠田卓夫様のご挨拶をふくめてありがとうございます。その余韻がまだ残っております。

ウ. 関係各機関のご支援とメンバーの努力

「子たちに力を」を忙しい中を責任をもって各分担の活動にあたるメンバーの努力、教育委員会、各校種校長会、市P協、マスコミのご協力をはじめ寄せられるご厚情、この支えがあるからこそ「がんばることが出来る」そう考えております。

エ. 今後の課題(センターの運営)

無我夢中の8ヶ月余ですが、組織の拡大と財政等将来を展望する中で考える課題です。「空気と日光」として友だちの愛、これだけあつたらよわきつてしまふな。わたくしの好きな言葉のひとつです。今後ともご指導・ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

主な事業報告

- ① 第1回理事会(平成16年2月21日)
 - ・教育活動サポートセンター設立準備
 - ・運営組織、定款等の検討
 - ② 第2回理事会(3月6日)
 - ・役員、趣意書、定款、組織等の決定
 - ③ 第3回理事会(3月27日)
 - ・事業計画、予算書等の検討
 - ④ 設立認証申請(4月7日)
 - ・第4回理事会(4月24日)
 - ・事務所賃貸契約、活動会員・賛助会員募集等について
 - ⑤ 第5回理事会(6月13日)
 - ・市長・副市長・教育委員会表敬訪問(6月16・17日)
 - ⑥ 第6回理事会(7月10日)
 - ・サポートセンター設立総会、設立記念講演会・懇親会の計画
 - ⑦ 県知事より認証される(7月23日)
 - ⑧ サポートセンター設立総会・設立記念講演会(講師、藤嶋昭先生)・懇親会の実施(7月31日)
 - ⑨ 第7回理事会・第1回活動会員合同会(9月25日)
 - ・市内小学校へ「教育活動サポートセンター」の配置事業、ホームページの作成、会報の発行について検討
- ・これまでの学習支援事業、相談活動、不登校等への適応指導のまとめ

活動の概要

教育相談
◇児童生徒の問題行動に対する相

談
◇児童生徒がもつ不安や悩みに対する相談

◇保護者の教育上の不安・悩み等の相談

① 電話相談
月曜～金曜(午前9時30分～午後5時)

② 来所相談・訪問相談
月曜～金曜(午前9時30分～午後5時)

学習支援
◇月曜から金曜の各教科の個別学習教室

◇長期休業等を活用した補習教室
・小学1年生から中学3年生の教科学習基礎基本の理解と学力アップを支援する。

・月曜から金曜(週2日)
小学生(午後4時30分～午後6時)
中学生(午後5時30分～午後8時)

・学習する教科や時間は、相談に応じます。

適応指導
◇不登校者への適応指導教室

◇学力不振相談・集団生活不適応指導

・学校に行けずに悩んでいる児童生徒は、本サポートセンターの施設で学習ができます。

・月曜～金曜
(午前9時30分～午後2時)

・本サポートセンターでの学習活動は、学校と同じ出席扱いとなります。

研修
◇教科研究会・各種研修会への講師派遣

◇講演会の開催

委託
◇教育活動サポートセンター配置事業

◇学校図書館有効活用相談員派遣

設立記念講演会

七月三十一日 中原市民館にて

七月二十三日、神奈川県知事より特定非営利活動法人「教育活動総合サポートセンター」が正式に認証されました。これを記念して設立記念講演会を開催いたしました。

本法人は固有な特色をもち、川崎市における新たな教育活動を開始すると共に、将来、幅広く川崎の文化事業に貢献できるよう考えております。

こういう考えから、講師には神奈川県技術アカデミー理事長の工学博士、藤嶋 昭先生をお願いしてまいりました。先生は、ご功績が示しますように、我が国における科学技術の文化振興に大きく貢献され、世界的な規模で注目されております。

また、先生は科学技術の振興にも情熱をかたむけておられ、学校を訪問され、子どもたちに直接授業をされておられます。当日の演題も「科学する心・科学する子ども」でした。

この講演を計画するにあたり、本法人の設立記念にふさわしく設立趣旨を反映できるように、教育関係者は元より幅広く市民の皆様も聴講できるように企画いたしました。お陰様で当日の入場者は、教育委員会・教職員、PTA関係者、

一般市民を含めて、総数二百五十人でした。

また、記念講演会終了後会場を移し懇親会を開催いたしました。設立に至るまで温かいご指示とご協力をいただきました。阿部孝夫川崎市長様、河野和子教育長様を始め多くのご来賓の方々をお迎えすることができました。

懇親会では藤嶋 昭先生の奥様にお祝いの日本舞踊をご披露していただきました。奥様は、藤嶋流家元として海外でも日本文化の振興にご貢献されておられます。

生涯学習体系の中にある子どもたちの健やかな育ちに着実な目を向けると同時に、本法人が幅広い文化事業を提供できるように、設立の心をかみしめる懇親会でした。

魅惑の講演会

「科学する心・科学する子ども」

講師 工学博士・藤嶋 昭先生

講演会は「科学する心が」古今東西の古典、芸術や文学、宗教、哲学にもふれながら余すところなく伝わる魅惑の一時でした。

始めに、国際賞の対象となった「光触媒の研究」のお話がありま

した。「光触媒」は、一見難しうだが、キーワードはたった二つ、「酸化チタン」と「光」、酸化チタンを塗る。光をあてる。そこにおこる無公害な殺菌作用。あるいは鏡の曇りを防ぎ、汚れをとってくれる作用。



この現象の活用は、建造物、病院と医療、生活用品、脱臭、電車、工場、トンネル等々、多種多様となつていくことを多くの事例をあげて分かりやすく説明され、まさに科学する心の、魅惑の世界が会場に広がりました。

藤嶋 昭先生は「研究はセンス」だとお話されました。それは「ある現象を見つけた。それを広く捉える。積極的に捉える。いいところを使うようにする。広くポジティブに考える。」ことだと説明されました。

そして、「その場所にいるだけで高められる雰囲気。自分から学ぼうとする心構え。勉強したくなるような雰囲気。これが一番大切」とされ、オリジナリティーの重要さが研究にとわれることを指摘し

ながら、そのためには「継続と集中」が必要として、二つの専門領域を主張されておられます。先生の場合なら、自分の専門教科の他にもう一つ得意の領域、分野を持つ、つまり二つの領域に得意の分野を持つことです。

今、理科はなれが起こつている。小・中・高で七対五対三の割合になつていく。これを少しでも防ぐために、比べるシリーズを執筆されています。哺乳類、昆虫、金属等の大きさ、早さ等を比べ、理科に興味を持たせる工夫をしております。この理科はなれの現象を解消したいとして、「感動する心を小学生、中学生、高校生には非

考えていただきたい」と指摘されました。これらのお話は、科学する子ども活動に展開することができるとして伝わつてまいりました。

藤嶋先生の研究姿勢は、「美しい。不思議だな。どうしてこうなっているんだろう」と感動する。同じことではないか比べる。比べて統一してみることが一番大切である。」とまとめることができると思います。

このことも、科学する子どもの活動に展開できるものとして注目しておきたいと思えます。そして、先生は自分が研究してきたことは、全ての人に健康に快適に天寿を全うしてもらいたい。それに少しでも寄与できる科学技術でありたい。その一つとして研究してきたこと

が「光触媒」であるといつておられます。

先生の貴重な講演を基に、本法人は、「科学する心・科学する子ども」を目指した体験的な事業を子どもたちの夏季休業等の長期休業期間を活用して展開していきたいと考えています。

藤嶋 昭先生のご紹介

現職 県科学技術アカデミー 理事長

東京大学名誉教授

市文化賞選考委員会委員

市教育委員会委員

市名誉市民

東海旅客鉄道株式会社 機能材料研究所長

朝日賞 昭58

井上春成賞 平10

日本科学賞 平11

紫綬褒章 平15

第20回日本国際賞並びに 平16

日本学士院賞



活動する子どもたちから

自分の成長を信じ —目標に向かって前進—

サポートセンターに通うようになって、一ヶ月が過ぎました。ここに来る前は、その日に取り組む勉強量をきめてやっていたのですが、達成感がなかったように思います。ただ、サポートセンターに来て勉強をするようになってから、以前にも増してやる気がでてるようになりました。一人では分からないことや、できないことを学ぶことによつて、大きく、視野を広げて、物事を見て行くことができるようになったと思います。自分では気が付かないことも、先生達がアドバイスをしてくれるので、直して行くことができます。

先生達から学んでいくなかで、人とのコミュニケーションが、僕にとつて一番大切なことだと思ひました。人とかかわること、自分自身が成長できるのだと実感しました。普段生活をしているなかで、嫌なことや、思い通りにならないこともあるけど、物事を良い方向に受けとめていくことが大切なのだと思ひます。

自分の目標に向かっていくときに、様々な思いや、考えが、たくさんでてくるけど、何かに挑戦していくことが肝心なことだと思ひました。自分が今やるべきことのひとつとして、しっかりと勉強をして、高校進学をクリアすること。など、ごく「当たり前」のことですが、おろそかにしないでや

つていこうと思ひます。勉強をするのは、将来への「ステップアップ」のひとつであつて、努力した分だけ自分自身の力の一部となつてついでくるものなんだと思つています。これからは、先生達からたくさんのお話を学んで身につけていきたいと思ひます。(中三・T・I)

サポートセンターに通つて

私は七月からサポートセンターに来ています。初めてここに来る

センターの存在を心強く思う

「今日の算数 すごくよくわかつた」

下校してきた娘の聲が弾んでいました。新しい単元に入ったが、サポートセンターで先取りの形で習つていたので、授業内容がすんなり頭に入つてきたと言ふ。

「もし昨日聞いてなかつたら、わからなかつたかも」

照れ笑いの下にもほのかな自信を滲ませた娘に、サポートセンターにお世話になることにしてよかつた、と安堵の息を吐いた。

娘のクラスには四十人近い児童がいる。娘は良くも悪くも目立たない、わりと集団に埋没しがちな子で、わからないことがあつても自分から質問にいくようなことはなかなかなし。今まではそれでもよかつたが、高学年になつても果たして大丈夫なのか、と親としてはやや不安を覚えてもいた。四

時はどんな所でどんな人が居るのだろうと楽しみな反面不安でもありました。やはり一番最初はドキドキして、あまりしゃべることができませんでした。でもなれていくとみんな優しくとても親切なので安心しました。また歳は違ふけれど仲良くしてくれる友達もいます。

勉強は自分のペースでやれて、とてもわかりやすく教えてくれます。今までの勉強のおくれを取りもどすためにがんばりたいと思つています。(小六・M・T)

年の学年末の成績が思つていた程伸びなかつたこともその懸念に拍車をかけていたと思ふ。

通塾も考えたが、補修中心となると受験クラスの片手間のようないところが多く、また終了時間が遅いこともネックになり、決心できないまま無為に時間が過ぎていた。そんな時に出会つたのがサポートセンターだった。自宅から徒歩一分、ベテランの先生が個別指導をしてくださる、とのこと。飛びつくように申し込みをさせていだいた。

娘には事後承諾だったこともあつて当初は渋つていたが、お陰さまで今は楽しそうに通つている。毎回の学習が確実に自分の力になつていくと実感できているのだろう。失敗を恐れて、確認が持てないとなかなか手も挙げなかつたが、サポートセンターでの学習が自信

支援活動・委託事業等 —着々と—

○学習支援教育相談事業
月曜から金曜は、小学生1年・高校生を対象に、六月から本NPO施設を使つての「学習教室」や「教育相談」を行つています。

学習教室は、国語、社会、算数、数学、理科、英語等を週2日、1日2時間の個別学習を中心に進めています。子どもたちの能力に応じて、やさしく、丁寧に、穏やかに接しています。そのことが、子どもたちに反映して、熱心に学習に取り組む姿勢が生まれ、学習意欲を育んできています。

11月現在では、小学生9名、中学生18名と少数ながら人数も増え、充実した学習活動が展開され、子の裏打ちになつてきているのか、最近の学校でも積極的になつてきているのが窺えて、頼もしく感じている。

仕事を通じ、思うように勉強が進まずに苦労している中学生と数多く接している。彼らの声を聞くたび、小学校時代からの土台作りの重要性を痛感する。娘にはぜひ今のうちから学習の習慣を身につけ、その意味でも「やればできる」だ。その意味でも「やればできる」だ。その意味でも「やればできる」だ。その意味でも「やればできる」だ。

先生方のご尽力に感謝すると共に、今後とも親身のご指導を期待させていた。末筆ながらサポートセンターの益々のご発展を祈念し、本稿を終わらせていただく。

(小五母・M・F)

子どもたちに着実に力がついてきています。

教育相談は、6月の開所から11月までに、小学生21人・中学生40人・高校生3人・その他4人を扱つています。主訴別では、学習不振27人・不登校39人をはじめ障害やいじめ等6人の件数を数えています。

保護者からは、安心して学べる場・相談できる場として、喜ばれ感謝の声が多い。

○委託事業
①学校図書館有効活用事業(相談業務員派遣)
「読書の街かわさき」の推進を図る事業の一環として、委託されたものです。

期間は、7月～3月まで延べ日数58日の事業です。今年度は、小学校5校、中学校2校が指定され、本NPO法人の活動員が、その職務に従事しています。

主に土曜・日曜及び夏休みや読書週間期間等を活用して実施されているものです。本NPO法人の活動員14名が派遣され、11月現在、40日間(午前10時～午後4時)の業務を行いました。

②教育活動サポート配置事業
児童生徒へのきめ細やかな学習支援や教育相談など、教育環境や学校支援の整備を図るために「教育活動サポート」を各学校へ配置しています。事業内容は、学習活動支援・教育相談・教職員の研究研修支援・その他教育活動支援などが主な内容です。

学校からの要請は、学習活動支援が多く、特に、1人の教師では対応が難しい学級支援や学級の中で授業についていけない児童生徒の個別的指導等への要請がめだちます。学級担任の補佐として、主に教職を志す大学生を募集し、1回4時間を単位として要請校へ配置しています。

